



2026 年 8 月期 第 3 四半期決算説明 質疑応答集

この質疑応答集は、2026 年 7 月 9 日の決算発表後、アナリストや機関投資家等の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

Q1： ゲーム事業の第 3 四半期累計の業績について、売上高は前年同期比増収であるのに対し、セグメント営業利益は大幅な減益となっています。要因として稼働の空きの発生を挙げられていますが、固定費が前年同期に比べて増加しているということでしょうか。

A1： 継続的なベースアップなど将来の成長に向けた人財への投資等により、人件費などの固定費は前年同期に比べ数%程度増加しております。また、第 2 四半期までに主要な開発プロジェクトの一部で、品質向上等のため外注費等の変動費も前年同期比増加していました。これらはいずれも、策定した事業計画や、見込まれる開発需要にもとづきコントロールしながら実施してきたものです。しかしながら、第 3 四半期に海外クライアント向けの家庭用ゲーム機ソフト開発が一時停止（再開時期未定）となり、想定を超える稼働の空きが発生し、一時的に、固定的な製造原価をカバーする水準の売上を確保できない状況となりました。加えて、前期は第 1 四半期を中心に原価の発生しないレベニューシェア¹が例年より億円単位で増加しており、当第 3 四半期はその反動減があったことも、前年同期に比べて売上総利益が減少した主な要因のひとつです。

Q2： 営業減益の要因としてレベニューシェアが減少したとのご説明がありましたが、減少した背景を教えてください。

A2： 2025 年 8 月期の第 1 四半期を中心に、クライアント側で実施されたキャンペーン等により、一時的にレベニューシェアが増加しました。2026 年 8 月期第 3 四半期累計における前年同期比でのレベニューシェアの減少とは主にその反動減であり、運営タイトルの課金状況や過去に開発したタイトルの販売状況に、想定を超える変化が起こっているということではありません。

Q3： ゲーム事業の海外クライアント向けの家庭用ゲーム機ソフト開発が一時停止となったことにより、急にプロジェクトのアサインがなくなってしまった開発スタッフは、どのようにされているのでしょうか。

A3： 中小規模の開発を含む複数の新規プロジェクトの早期受注と、受注後のスムーズな立ち上げを進めており、順次新規プロジェクトへアサインしていただいております。ま

¹ 開発したタイトルの販売に応じて分配される成功報酬であり、原価を伴わない収益。



た、すでに進行中のプロジェクトで外部発注を予定していた業務の一部を、そうしたりリソース活用に切り替えているほか、研修や研究開発に時間を振り向けるなど、スキルアップや生産性向上にも取り組んでおります。

Q4： 海外クライアント向けの家庭用ゲーム機ソフト開発の一時停止によって逸失した収益に対し、現在進められている、新規受注の早期化等の対策の進捗状況、カバーの状況を教えてください。

A4： 先述の通り、新規開発プロジェクトの受注や受注後の速やかな立ち上げ、内部リソースの活用強化等を進めており、一定のカバーは進んでおりますが、当初当期中に対応を予定していたものの逸失した収益すべてをカバーするには至っておりません。引き続き、さらなる受注残の積み上げに向けて全力で取り組んでおり、2026年8月期第4四半期及び2027年8月期における適正な稼働水準の確保に努めております。

Q5： パイプライン情報において、当期中に新たに受注し、立ち上げ段階にある2つのプロジェクトは、一時停止した海外クライアント向けの家庭用ゲーム機ソフト開発の穴を埋める規模感のプロジェクトでしょうか。

A5： ゲーム事業で2026年8月期中に受注し、立ち上げ段階の2つの開発プロジェクトは、どちらも今後の売上拡大を牽引するプロジェクトです。しかしながら、一時停止した海外クライアント向けのプロジェクトの規模が非常に大きかったこと、また2つの新規プロジェクトの開発活動が本格的に活発化するのには2027年8月期以降となることから、2026年8月末までの当期の稼働という点では、カバーはし切れておりません。パイプライン情報に記載していない中小規模のプロジェクトがあるほか、現在も引き続き受注の上積みに取り組んでおります。

Q6： 海外クライアント向けの家庭用ゲーム機ソフト開発が一時停止となったことにより、第3四半期（3ヶ月間）は営業赤字に陥るほどの稼働の空きが生じたとのことですが、クライアントから何らかの補償は得られないのでしょうか。

A6： 当第3四半期以降に予定していた工程が再開時期未定の延期となり、アサインしていたチームの稼働が急に空いたことに対するクライアントからの補償は受けておりません。当該プロジェクトの再開見込や代替として別のプロジェクトの受注などを含めて先方と交渉した結果、先方の状況や今後の関係性を考慮して判断いたしました。

このような事態への今後の対策として、クライアントとの合意のもと予定していた開発工程が急にキャンセルされ稼働に空きが出る場合、一定の補償を求めることができる内容をあらかじめ契約に盛り込むことを検討しております。こうした事態に際しての協議や交渉の余地を広げ、当社のコントロールが及ばない事由による業績への影響の抑制に努めます。



Q7： 第3四半期（3ヶ月間）は13.6億円の売上がありましたが、第4四半期（3ヶ月間）の売上高は前四半期比でどのような見通しでしょうか。

A7： 先述の通り、第4四半期においても速やかな稼働の最大化に向けた対策を継続しております。現在の受注活動の成否や各新規プロジェクトの立ち上げ進捗等が影響することから、第4四半期の売上水準の見通しはまだ不透明ですが、状況が改善するよう事業活動を推進してまいります。

Q8： 通期業績予想は据え置きとのことですが、現行の通期業績予想の達成確度はどのように見えていますか。下方修正のリスクはないのでしょうか。

A8： 当第3四半期以降の稼働の空きへの各種対策の進捗も含め、通期の事業見通しに対してこれまでの事業活動の全体的な進捗は、概ね想定範囲内で推移しており、業績予想の修正は不要なレンジにとどまっている認識です。一方で稼働の空きの解消にはまだ受注の積み上げを要する状況であり、現在も引き続き全力で取り組んでおります。事業動向を注視し、見通しに変化があれば速やかにお知らせします。

Q9： 現在の受注状況もふまえ、2027年8月期の業績成長に対する手ごたえを教えてください。

A9： ゲーム事業で、現在重要な終盤工程を進めている主要な開発プロジェクトの完了後に取り組む、次の大型開発についても商談を進めており、2027年8月期は安定した業績推移を想定しております。一方で、これら終盤工程にあるプロジェクトは、2025年8月期以降、当社の業績を力強く牽引してきた開発プロジェクトです。これら複数の主要なプロジェクトが完了する、もしくは完了間近となることから、稼働の下降が見込まれます。加えて、現在すでに新規プロジェクトの立ち上げが重なっており、今後も随時、新規立ち上げがあることを見込んでおります。立ち上げ期は企画や構想などを進めることから、全職種での生産効率がじゅうぶんに高まり切らないフェーズです。こうしたことから、2027年8月期の特に前半は、開発終盤と立ち上げが重なり、収益が高まりにくい可能性も視野に入れております。現在も進めている複数の商談を結実させるとともに、プロジェクトの入れ替えをスムーズに進め、適正な稼働水準の維持に努め、安定して高い収益水準を目指してまいります。

Q10： 今回一時停止となったゲーム事業の家庭用ゲーム機ソフト開発のクライアント以外も含め、海外のクライアントとの取引状況について教えてください。

A10： [パイプライン情報](#)に記載する基準（売上5億円以上）に満たないことから同資料には記載しておりませんが、海外クライアントから受注した中小規模の開発プロジェクトが進行中です。当社のゲーム事業の収益拡大において、海外ユーザー向けのソフト開発や、海外クライアントとの開発プロジェクトが重要な戦略のひとつである



ことに変わりはありません。今後も海外の市場を意識した戦略は継続していく方針です。海外クライアントとの取引にあたっては、プロジェクト中止等があった際にも損失を被らない取引条件を整えて、進めてまいります。

Q11： Nintendo Switch 2 向けのゲームソフト開発の対応状況について教えてください。

A11： 家庭用ゲーム機向けソフトは、現在はマルチプラットフォームでの開発が主流であり、当社が開発を進めている主要なタイトルの多くが Nintendo Switch 2、PlayStation5、Xbox Series X|S、PC（Steam 等）を含むマルチプラットフォームです。実際、当社が開発させていただき、2026 年中に発売を控えているタイトルは、Nintendo Switch 2 が対応機種に含まれております。同機種の好調な売れ行きから、開発に関するご相談は、リマスター・新規ともに、継続して複数件寄せられております。

Q12： インフレや材料費高騰が続いていますが、建替えを進められている長岡京トーセビルの解体費用の建設費用が予算を超過するリスクをどのように見えていますか。

A12： 継続するインフレ基調や建材コストの上昇等の動向を注視し、施工業者と連携しながら慎重にコスト管理に取り組んでおります。新オフィスビルの建設資金としては、京都府長岡京市に有する土地の一部売却や、西大路開発センターの土地・建物の売却によって得られる資金等を活用する予定であり、資金収支の見通しを適時確認しております。現時点では計画の範囲内で推移しておりますが、万が一、今後の業績や資金計画に影響を与えるような重大なリスクが顕在化した場合には、速やかにお知らせいたします。

以上

IR メール登録のお願い

投資家の皆様への情報発信充実化を目的に、IR メールを配信しています。
是非ご登録ください。

<https://www.magicalir.net/4728/mail/index.php>

